

特別支援学校における就学支援に関する調査研究

知的障害特別支援学校と肢体不自由特別支援学校の学びの接続に注目して

○堀江俊丞

真鍋健

（元千葉大学教育学研究科）

（千葉大学教育学部）

KEY WORDS: 就学支援、特別支援学校、学びの接続

1. 問題と目的

平成 29 年度に告示された特別支援学校新学習指導要領では「幼児期に育まれてきたことを特別支援学校小学部の各教科等における学習に接続すること（以下、学びの接続）」が求められたことから、今後さらに特別支援学校へ就学する児童への就学支援が重要になると考えられる。しかし、特別支援学校の就学支援に関する研究は少なく、特別支援学校の学びの接続についての現状を明らかにした研究はない。おそらく特別支援学校の高い専門性の元、各学校の自助努力で陰ながら処理されていると考えられるが、スムーズな学びの接続を目指す上で教師の苦労や思いを蔑ろにすることはできない。また、障害種ごとの独自の専門性がある可能性も考えられるが同様に焦点を当てた研究はない。そこで本研究では、知的障害特別支援学校と肢体不自由特別支援学校の就学時の学びの接続について調査及び考察することを目的とする。

2. 方法

予備的調査を基に質問紙を作成し、X 県・Y 県・Z 県の知的障害特別支援学校 60 校、肢体不自由特別支援学校 18 校、複数障害種特別支援学校 9 校の就学支援担当教師と担任教師に分けてそれぞれ配布した（配布時期：2019 年 11/25～12/25 まで）。回収率は就学支援担当教師が 43 校（49%）、担任教師 41 校（47%）であった。なお、配布時に本研究の目的を説明し、報告に関する同意を得た。質問紙の内容を表 1 にまとめる。

質問紙内容（表 1）

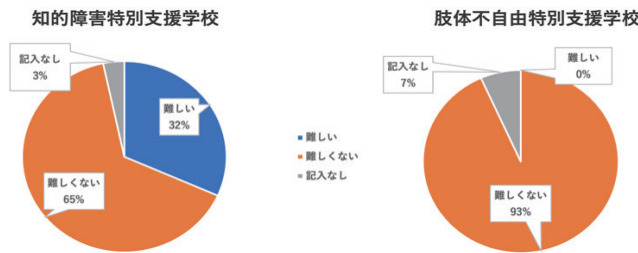
対象	内容
就学支援担当教師	就学支援担当教師について、子どもへの支援、保護者への支援、 <u>学びの接続</u> 、就学支援の課題
担任教師	子どもへの支援、保護者への支援、 <u>学びの接続</u> 、就学支援の課題

3. 結果と考察

①学びの接続の困難さについて

2 つの障害種の特別支援学校の教師に「幼児期に育まれてきたことを特別支援学校小学部の各教科等における学習に接続すること」の困難さについて回答を求めた（Fig 1）。今回の調査では肢体不自由特別支援学校では学びの接続について困難さを感じている教師は見られなかった。一方で、知的障害特別支援学校では学びを接続することについて困難さを感じている教員が 3 割ほど見られ、2 つの障害種の間で差が見られた。

Fig 1：学びの接続の困難さについて

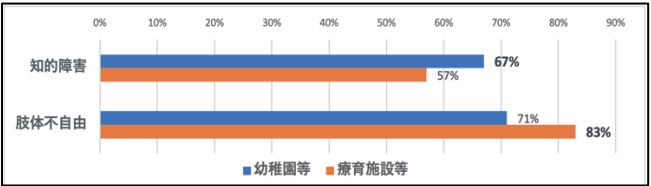


②各学校が引き継ぎを行う就学前施設について

2 つの障害種の特別支援学校の就学支援担当教師が情報を

収集する引き継ぎ先について比較した（Fig 2）。その結果、今回の調査では知的障害特別支援学校では幼稚園等からの情報の引継ぎを行っている学校が多かった。一方で、肢体不自由特別支援学校では療育施設等からの情報の引き継ぎを行っている学校が多い結果となっており、2 つの障害種の学校で差が見られた。

Fig 2：各学校の引き継ぎ情報の収集先の割合



③各学校の中心となる教育課程について

2 つの学校の中心となる教育課程を自由記述から考察した（抜粋 1・2・3）。その結果、肢体不自由特別支援学校では自立活動を中心に指導が行われていると推察された。一方で、知的障害特別支援学校では領域・教科を合わせた指導が中心であると推察され、各学校の中心となる教育課程においても差が見られる結果となった。

特別支援教育では自立活動が重要であると思う。自立活動の指導という土台の上に各教科等の指導があるので生活科よりも自立活動を重視する必要がある。（肢体不自由特別支援学校自由記述より、抜粋 1）

特別支援学校小学部の低学年では領域・教科を合わせた指導が中心になることが多い。（知的障害特別支援学校自由記述より、抜粋 2）

『生活科』の内容を意識しながら教育計画を作成しているが従来の『生活単元学習』の流れもあり、合科的授業の中でやりづらい面もある。（知的障害特別支援学校自由記述より、抜粋 3）

4. 総合考察

今回の調査では学びの接続の困難さに二つの障害種の学校で差が見られる結果となった。一つ目の理由として各学校が情報の引き継ぎを行っている就学前施設の違いが考えられた。遊びや生活を通して育まれた幼稚園等での学びと個々の発達や障害特性に応じた支援を行う療育施設の学びが異なることが異なることは想像に難くない。そして、療育施設等の学びの内容が特別支援学校の授業形態や学びの内容に近くスムーズな学びの接続につながると考えられる。二つ目の理由としては各学校の教育課程の違いが考えられた。今回の調査では、領域・教科を合わせた指導を中心に行う知的障害特別支援学校よりも、自立活動を中心とした教育課程の肢体不自由特別支援学校のほうが学びの接続について難しいと回答した教師が少ない結果となった。そのため、教育課程によって学びの接続の歯やすさは異なる可能性があり、学びを接続する上では教科指導や合科的な指導よりも自立活動がキープポイントとなる可能性が推察された。

今後はスムーズな学びの接続を目指すための具体的な指導や接続しやすい教育課程を調査する必要がある。

付記：本研究は科研費 18K13210 の助成を受けたものである（HORIE Shunsuke, MANABE Ken）